

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

モデル校名 山形県東置賜郡高島町立第一中学校

○ 学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

高島町立第一中学校						
	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	117	89	113	1	320	

○ 「総合的な学習の時間」実施上の課題

学校全体としてのテーマは設定されていたが、全体計画が整備されていない、系統性やねらい、視点が焦点化しきれない面があり、各学年毎に取り組みの差が出てしまった。年間計画なども各学年による調整がより必要であった。

○ 研究主題に対する受け止めと目標設定

地域と密着した総合学習を目指し、地域を内側から、あるいは修学旅行などを通して外側から見てみるなど多様な考え方で総合的な学習を行なおうとしている。地域の自然にも恵まれ、また、歴史豊かな地域でもあり、広い視野で高島を見つめることは自分の生き方につながるものと考え、目標を設定した。

○ 取り組みの成果と課題

<成果>

- ・1 学年では、歴史や自然、言語などの視点から、高島と山形県との違いなどを浮き彫りにすることができ、それらを新聞という形でまとめることができた。また、旅館の方へのインタビューやジャム作りの体験など普段の学校生活ではできないことを行なうことができた。
- ・2 学年では、職業体験や仙台市内での体験活動を自分たちの手で企画し、実施することができた。地元から離れることで、人情の豊さ、自然の豊さなど高島の良さを再認識することができた。
- ・3 年生では、今まで学習した「歴史」や「産業」などをさら深く調べ、情報や提言として発信しようとした。また、八千代台西中学校との交流も応援合戦やレクなどの主体的な取り組みを積極的に行なうことができた。

<課題>

- ・各学年ともに、時間通りに実施することができたが、行事等により、活動が途切れるときがあり、活動のまとまりをもっと短いサイクルにしていくべきであった。
- ・学校全体としての系統性や学年により高まる姿を明確にしておくべきであった。
- ・総合の全体学習を取り入れ、調査の仕方、インタビューのコツ、まとめの仕方、発表の仕方などを学ぶ時間を年間計画の中に組み込むべきであった。

○ 平成 16 年度に取り組む視点

- ・学年毎の系統性を明確にし、ねらいを絞り、目指す生徒像を具体的に示していく。
- ・地域を元にした総合をさらに推進し、調べ、体験し、発信していく。
- ・各学年の年間計画の中に、「環境学習」を位置付け、学校を上げて取り組んで行く。

学校教育目標

- ・自ら学び生き方を見いだす生徒
- ・豊かな心で高め合う生徒
- ・健康でたくましい生徒

?

総合的な学習の時間で育てたい力

- ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
- ・地域に目を向け、理解し、積極的に関わろうとする態度を養う。

高島町の環境学習

- ・体験を通して町の自然や生活環境に目を向け、課題意識を持たせる。
- ・環境にやさしいライフスタイルを実践する態度を養う。

⇔

各学年の「総合的な学習の時間」の目標

1年

- ・高島町の自然や産業、歴史、文化についてさまざまな角度から調べることにより、地域の理解を深め、地域への関心を高める。

2年

- ・高島町の農産物や工芸品について調べ、自ら作り、「朝市」に出店することにより、地域に積極的に関わろうとする態度を養う。

3年

- ・高島町について調べたことをもとに、よりよい高島町にするための方策を報告書やビデオ等にまとめ、発表することにより、地域の一員として地域をよりよくしようとする態度を養う。

各学年のテーマと領域（内容）

「地域を知る」

- ・高島町の自然を調べる。
- ・高島町の産業、歴史、文化を調べる
- ・調べたことを発表する。

「地域と関わる」

- ・野菜や農産物の加工品、工芸品を作る。
- ・町の経済活動を調べ、「朝市」に出店する。
- ・職場体験学習を行なう。

「地域に発信する」

- ・よりよい高島町にするための提言を、報告書・ビデオにまとめる。
- ・町の行事に参加する。

小中連携の具体的視点

- ・統一テーマを設定する。
- ・合同行事を行なう。
- ・授業交流（合同発表会等）を行なう。
- ・校区の担当者会を定期的で開催する。